

回生 ニュース

K a i s e i N e w s

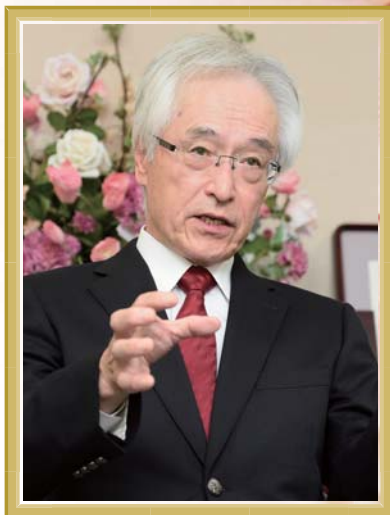


社会医療法人 峰和会

86号

2016.1月発行

発行／社会医療法人 峰和会
編集／鈴鹿回生病院
所在地／鈴鹿市国府町112番地1
TEL／059-375-1212
FAX／059-375-1717
URL／<http://www.kaiseihp.com>
編集協力／TCKnagoya



社会医療法人 峰和会
理事長 長谷川 静生

迎春 2016

新年あけましておめでとうございます。

団塊世代が全て後期高齢者となる2025年迄余すところ9年、正にカウントダウンの始まる今年です。社会保障制度に関わるこの2025年問題に対して、これまで行われてきた活発な議論の成果の一つが2014年6月公布された「医療介護総合確保推進法」でした。地域包括ケアシステムが示され「病床機能報告制度」が開始された訳ですが、その平成26年度の集計報告状況が公表されました。それによれば鈴鹿、亀山地域における報告結果では、2025年予想必要病床数と申告された現在稼働中の1800床あまりの報告病床数との間には大きな差異はありませんでした。むしろ4区分の病床機能間での病床数に差異が有りこの調整が今後の課題のようです。地域医療構想区域調整会議での成り行きに注

目して回生病院グループ全体の進路を考えて行かなければなりません。今年は計画準備段階から行動準備段階に入った年と言えるでしょう。

4月に診療報酬の改定が行われます。前回平成26年度の改定は実質マイナス改定で、全国の医療機関特に病院に於いて経営内容の悪化を招きましたが、今回の改定に於いても事前に漏れ伝わって来る情報では私達にとって歓迎する内容は見当たらないようです。また来年度に予定されている10%への消費税増税も損税となる医療界にとっては大変大きな問題です。診療報酬改定、消費増税何れも今後の医療の方向性に影響する重要関心事であります。我国社会保障制度の行く末を考えると理解しなくてはならない点も有りますが、経済的論理のみでは無くまた政治取引の材料にするのでは無

い、是非とも国民の納得が得られる決着を望みたいものです。

今年は5月に「伊勢志摩サミット」が開催されます。世界の重要政治会議である一方、首脳が一堂に会しマスメディアを通じて日本そして三重県、伊勢志摩を世界に紹介できる絶好の機会であります。現在国、県共に全力を上げて、「おもてなし」の質はもちろん医療面、治安面等々さまざまな角度からの準備が行われているようです。後世に示唆するメッセージを残すサミットとなることを期待したいと思います。変化の激しい現在の医療環境の中、サミット同様地方から何かキラリと光るものを発信できるその様な病院作りを念頭に、この1年頑張っていきたいと思っております。

本年もどうかよろしく願いいたします。

平成
28
年

両院長より新年のご挨拶

変革していく医療政策のなかで

新年あけましておめでとうございます。

私が院長に就任し、2回目の新年を迎えました。昨年は、適切な病棟人員配置や職員一人一人の努力によってバランスのとれた入院稼働率・平均在院日数を実施することができ7月から7対1看護基準体制を導入いたしました。結果として、多くの病院の経営状態が悪化している中でも、当院は健全な経営を実現でき、地域の基幹病院として、レベルの高い医療提供ができたと思っております。

しかし、今年の4月に行われる平成28年度診療報酬改定や昨年から徐々に始まっている2025年問題を見据えた地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築に向けての議論は、当院にとって必ずしもフォローの風とはいいいがたいものと思います。国は財政赤字解消という避けられない目標のために、医療費削減を第一に考え、あらゆる手段を講じてくるものと覚悟しなければなりません。そして、当院としても対策を講じて乗り切る必要があります。そうはいっても、財務面にばかり目を向けて、よりよい医療を地域の皆様に提供していくという大きな目標を見失っては本末転倒になってしまいます。昨年行われたラグビーワールドカップでの日本代表チームの戦いぶりは私たちを感動させました。彼らは奇襲作戦で南アフリカやサモア、アメリカを打ち負かしたのではなく、チームの特徴を生かした正攻法を日々の繰り返し練習で磨き上げて、強豪チームに立ち向かった結果が3勝1敗という好成績につながったのです。私たち回生病院の職員もチームの一員として、これまで以上に自分自身の分野に特化して、病院の特徴を前面に出し、総合力向上につなげていく、それこそが、変革していく医療政策に立ち向かう正攻法ではないかと考えています。

地域の皆様が安心して生活できる地域医療や地域包括ケアシステムの構築に貢献できる病院を目標に、今年も職員全員一丸となって勤める所存でございます。ご指導ご支援よろしくお願い致します。



鈴鹿回生病院
院長
加藤 公

心の通った医療をめざして

新年あけましておめでとうございます。

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる2025年には、これまでに経験したことがないような超高齢化社会がやってきますので、それに向けて、世の中の仕組みを変える必要があります。とりわけ、より良い医療や介護の提供がどうやったら出来るのかを、地域の特性に合わせてそれぞれがビジョンをたてているところです。鈴鹿回生病院の地域での役割は急性期医療ですので、附属クリニックもそれにあわせた診療体制をとり、地域の診療所との連携が大切だと考えています。また、それぞれの診療科で質の高い専門的な診療が行われ、特色ある外来の設置も必要であると思っています。

さて、昨年も外部の方の協力を得て接遇委員会が、「患者さん満足度調査」をさせていただきました。接遇全般については、「非常に満足」16.1%「満足」57.5%で合計73.6%の方に良い評価をいただいています。しかし、「やや不満」2.9%、「不満」0.2%で合計3.1%方には厳しい評価をいただきました。個別の評価では、診察待ち時間で、約35%の方が、「やや不満」、「不満」とのことでした。待ち時間を短くし十分な診察時間を確保することは、大切ですので問題意識を持って改善に努めたいと思います。それぞれの診療科の特性もありますが、大切なのは心の通った医療だと思いますので、信頼され安心して任せられる医療を提供できるよう、職員一同努めてまいります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



鈴鹿回生病院附属クリニック
院長
田中 公

連携医療機関紹介

しまむらクリニック



▲ 院長の島村 栄員（しげかず）先生

昨年5月にリニューアルしました。

しまむらクリニックは白子のグリーンパークホテルの向かいにあります。ガラス張りのスタイリッシュな外観の院内に入ると明るい日差しが燦々と降り注ぐ開放的な待合が広がります。



院長の島村栄員（しげかず）先生は、昭和57年（1982年）新潟大学医学部をご卒業後、消化器外科をご専門とされ中勢病院（現鈴鹿中央総合病院）、国立津病院（現三重中央医療センター）、そして鈴鹿回生病院などの医療機関にて研鑽を積まれた後、平成4年（1992年）3月、副院長である内科医で奥様の島村早苗先生と共に隣の地に開業されました。開業当初から有床診療所として入院施設も充実しており入院患者さんも多かったといえます。時代の流れで入院の需要が少なくなったの機に、第二駐車場だったこの地に場所を変え無床診療所として平成27年5月にリニューアルオープンとなりました。現在先生、奥様を筆頭に、看護師6名、放射線技師1名、事務員4名の計13名で診療にあたっています。

丁寧な診療をモットーに！

患者さんの話をしっかり聞く丁寧な診療をモットーにしている先生。特に初診患者さんとの話はとても長いのだとか。「患者さんの症状を聞いていると、患者さんが言いたいことと、医師として聞きたいこととの齟齬が生じる事が多いんですね。開業医だからできると思うのですが、じっくり時間をかけて話をしながら症状を把握するよう心がけています。例えば、治療に薬は必要ですが途中で必要でなくなる方もいるわけです。その人その人のオーダーメイドの治療が必要であると考えています」。

一念発起のダイエット

「患者さんに痩せなさいと話をする時は私の太っていた頃の写真を見せると効果覲面なんです」と、50歳の頃、一番太っていた時期の写真を拝見させていただきました。その頃に体を絞ろうと一念発起し食事制限。初めの1年で約10キロ痩せたそうです。「ある程度痩せてから膝に負担がかからないようになれば運動も効果的ですが、体重を1キロ減らすのに必要な消費カロリーが7000キロカロリーであるのに対し、1キロ走っても70キロカロリーしか消費しません。であれば、食事制限のほうが効果が高いのです。もちろん運動も必要ですから現在は健康維持とリバウンド防止のためにも毎日5キロほど走っています」。

患者さんへのメッセージ

～痩せた方がよい患者さんで、食べたい！という欲求がある患者さんには、空腹感があった方がいい、というお話をします。少し物足りないほうが丁度いいのです。腹8分目。即ち食べ過ぎないこと。食べ過ぎは体を酷使することです。食べ過ぎて苦しくなり、胸焼けの薬を飲むくらいなら、食べるのを控えめにしなさいと話します。いわば胸焼けが体のサイン。体が教えてくれてるんですね。自分

DATA

TEL 059-386-6161

住所

鈴鹿市白子4丁目16-2

診療科目

●胃腸科 ●外科 ●内科

診療時間

午前／8時30分～12時00分

午後／3時00分～6時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	×	○	×	×

休診日

木曜午後、土曜午後、日曜、祝日



の体に優しい生き方をして頂くことで結果、健康寿命が伸びるのだと思います。若いうちは病気が始まる前に留める事ができます。60を超えると病気は出来上がっているため、病気をこれ以上悪化させない治療になる。しかし発見が早ければ、戻すことも可能です。体調がおかしいな？と思ったら早めの受診をお勧めします。どんな病気でも早期発見早期治療が有効です。当院では出来ない検査や治療が有る場合は、回生病院さんのような基幹病院に紹介させていただきます。～今後も地域のホームドクターとしてのご活躍を期待しています。



副院長 島村 早苗先生

ロコモシリーズ ロコモ予防体操 (体幹・頸部)

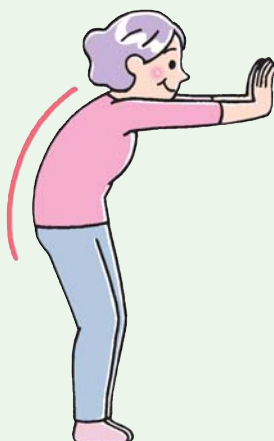


作業療法士
坂 尚樹



臀・腰部

立った状態から両手でつま先を触れるようにゆっくり背中を丸めることで臀・腰部をストレッチします



上背部

両腕をまっすぐ前に伸ばすようにして肩～背中をストレッチします



頸部

片手で頭を抱え、抱えた手で頭部を軽く倒すことで頸部をストレッチします

Point

- 呼吸は止めないようにする。
- 反動をつけたり、押さえつけたりしないようにする。
- 20～30秒程度、ゆっくりしっかり伸ばす。
- ストレッチする部位の筋が十分伸張する感覚を意識する。
- 痛みを感じない程度に伸ばす。

※次号ではロコモ予防体操(ロコモーショントレーニング)をご紹介させていただきます予定です。

発信@
栄養管理室

管理栄養士
村上 清香



●レモン

レモン汁を使う事は良くありますが、今回は果肉ごといただく料理を紹介します。皆さんご存知の通り、レモンにはビタミンCがたくさん含まれています。ビタミンCは鉄分を吸収しやすい形に変える助けをするため、レモンと豚レバーを一緒に食べることで鉄分を効率よく補給することが出来ます。

●下処理法

レバーは臭みが強く苦手な方も多いと思いますが、下処理をしっかりとすることで美味しくいただけます。今回は生姜にんにく汁に漬け込みましたが、牛乳に漬け込んでも臭みがやわらぎます。

ピックアップ食材
レモン



たっぷり補給!!

鉄分

【材料】(4人分)

豚レバー	400g 程度のもの
にんにく	2片
生姜	にんにくと同量
塩	小さじ1
しょうゆ	小さじ4
こしょう	適量
レモン	2個
砂糖	小さじ2

添え野菜

白ネギ
赤ピーマン
水菜 (分量は適量)

【栄養成分】 1人分

※添え野菜の栄養成分は除く

エネルギー	320kcal	塩分	1.6g
たんぱく質	24.6g	鉄分	13.6mg
脂質	15.5g		



臭くないレバーカツ～レモン果肉ソースを添えて～

【作り方】

- ①レバーを開き、血合いの部分をしっかり洗い、水気をとっておく
※レバーの処理をしっかりと行なうことで臭みが軽減する
- ②Aの生姜とにんにくをすりおろし合わせ調味料を作り、①を漬けこむ(20分程度)
- ③添え野菜は白ねぎで白髪ネギを作り、赤ピーマンはスライス、水菜は食べやすい大きさに切ってそれぞれ水にさらしておく
- ④レモンは皮をむき、果肉を取り出して砂糖とあわせてソースを作る
- ⑤②に小麦粉、卵、パン粉の順につけ、170℃の油で揚げる
- ⑥⑤と水気をきった③を盛り付け、レモンソースと一緒にいただく

★豚ロース100gで作ったカツと比較すると約13倍の鉄分です

このコーナーでは毎号当院のドクターを紹介してまいります。

Doctors List

森田 哲正 もりた あきまさ 整形外科 副院長

専門領域: 上肢外科(手外科、肘関節外科、肩関節外科)

資格: 日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会スポーツ医、日本マイクロサージャリー学会評議員、日本手外科学会専門医・評議員、日本体育協会公認スポーツドクター、日本リウマチ学会専門医、補装具適合判定医、三重大学医学部臨床教授



Q1. 出身地はどちらですか？ 幼少時の思い出を聞かせてください

三重県伊勢市出身です。小さい時から昆虫が大好きで暇があれば山に虫取りに行っていました。買ってもらった本もほとんど昆虫図鑑だったように思います。また昆虫の中でも特に蝶が大好きで父親に標本の作り方を習って小学校の6年生時には日本の蝶の約1/3に当たる80種類、600匹の蝶の標本を持っていました。

Q2. なぜ医師をめざしたのですか？

5歳の時に事故に会い大腿部(太もも)を骨折し、市内の大きな病院に約3か月入院したことがありました。その時担当であった先生がすごく頼りになり子供心にその先生のような医師になりたいと思ったのが最初です。あとでわかったことですが、私が怪我をした当時その先生は医師になってからまだ3か月しか経っていなかったようです(笑)。

Q3. 整形外科を 専門にしたのはなぜですか？

子供のころの印象で漠然と整形外科に興味はありましたが大学時代には自分の将来の進路についてはほとんど考えていませんでした。大学5年になり臨床の講義が始まってあまり興味の湧くものには出会えませんでした。その時がやって来たのです。それは整形外科の授業で、手指切断の再接着の講義でした。その時の授業の面白さと切断された手が元通りに回復しているスライドをみて機能回復の面白さに目覚め整形外科医(手外科医)になろうと決めました。私はキリスト教徒ではありませんがまるで神の啓示のようでした。その時からずっと一人前の手外科医になろうと研鑽しています。ちなみにその講義をされた先生は当院の名誉院長である藤澤幸三先生です。ので不思議な縁があったのだと思います。

Q4. 趣味や好きな事 (ストレス発散方法など)

釣りが趣味です。基本的には釣りは何でもしますが食べられる魚が中心です。また根っからの凝り性で、仕掛けをはじめ釣り竿、カラー魚拓なども自作しています。最近では病院の外で様々なジャンルの釣りの達人たちに出会い、新たな友人関係を楽しんでいます。



Q5. 今後力を入れて行きたい事は何ですか？

2015年4月より副院長の大役を任されました。今までは整形外科のスタッフがうまく仕事ができる環境を作ることを考えていましたが今後はその枠を病院全体に広げていきたいと考えています。特に横のつながりは重要で他の科と連携し、より良い医療が提供できるようにしていきたいと思っています。

Q6. 紹介を希望する疾患を教えてください

先天疾患、骨折、年齢による変形など手肘肩に関することは何でもご相談ください。また投球障害の治療、再発予防、フォーム矯正などを理学療法士と協力して行っていますので治療に難渋している症例がありましたら是非ご相談ください。

Q7. 学生時代の思い出をお聞かせください

学生時代は中学3年間で大学6年間の計9年間も剣道部に所属していました。かなり真面目に取り組んでいましたので小さな大会で優勝もすることができました。また卒業旅行も良い思い出です。約20日かけて西ヨーロッパ12か国をツーリングしました。綿密な計画を立てたつもりでしたが旅行初日から予定していた便に乗れず、モスクワ空港で野宿をしました。その後もアクシデントの連続でしたが、初めて触れる異国文化に感動し、見るもの聞くものすべて楽しい経験でした。退職したら是非同じルートをツーリングしてみたいです。



Message

患者さんへのメッセージ

当院の整形外科は各医師が専門を持ち高度な最先端の治療に取り組んでいます。でも最先端の治療がいつも最良な治療とは限りません。1つの治療法を押し付けるのではなく様々な選択肢を情報として提供し患者さんのご希望に応える治療法と一緒に考えていきたいと思っています。是非ご相談ください。

第7回 亀山市脳卒中 市民講座開催 ～亀山市文化会館にて～

11月8日(日) 亀山市文化会館にて第7回亀山市脳卒中市民講座を開催致しました。当日は200名を超える大勢の市民の皆様にご参加頂き、当院荒木副院長をはじめ4名の医師により脳卒中に関する講演を行いました。



ほっと smile

リハビリ風景



今回ご紹介するのは、当院の6A病棟に入院されていた真弓竜一さんです。真弓さんは、四日市工業高校から王子製紙に入社し、社会人野球選手として活躍されていましたが、21歳の時に急性リンパ性白血病を発病し、1年にわたる入院治療を乗り越えて、現在は選手としての復帰を目指してリハビリ中です。

『道はどんなに険しくても笑って歩こう』この言葉は、真弓さんが入院中ずっと心がけていた言葉です。退院後も度重なる試練に直面しますが、選手として復帰するという強い想いを胸に日々笑顔で前を向いて取り組んでみえます。再びグラウンドに立ち、豪快なスイングを見せてくれると思います。皆さま応援よろしくお願いします。



編集後記

今回は「新年のご挨拶」を中心に、医療連携紹介などをお送りいたしました。皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等ございましたら、広報委員会までお寄せください。



病院のボランティアの方に毎週美しく生けていただいております。(病院玄関)

健康セミナー開催

11月28日(土)開催の、第12回健康セミナーでは、健診で分かる肺の病気について、知っておきたい乳がんのお話、また肩こり対策の講話と実技、各測定コーナーで大盛況でした。皆様のまたのご参加をお待ちしております!



鈴鹿シティマラソン

12月13日(日)第18回鈴鹿シティマラソンが鈴鹿サーキットにて行われました。当日は医科学相談コーナー、救護班を設置して当院から専門医師をはじめ多くのスタッフを派遣し走者のサポートを行いました。



クリスマスコンサート'2015

12月19日(土)恒例のクリスマスコンサートが開催されました。職員によるハンドベル演奏、院内サークル「響」による三味線演奏や院内保育所「回生キッズ」のかわいい子供達による歌の披露が行われました。今回はゲストコンサートとして、「リラ&あいあい」の皆様にご参加いただき、美しい大正琴の音色が会場に響き渡りました。



病院の理念

生命への奉仕

病院の方針

- ▶ 地域の基幹病院として医療と健康の増進に貢献します
- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ チーム医療を推進し医療の質を向上させます
- ▶ より安全で高度な医療を提供します
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます

鈴鹿回生病院 広報委員会

〒513-8505 三重県鈴鹿市国府町112番地1

TEL059-375-1212 mail:info@kaiseihp.com